

川口病院が担う役割について

令和5年8月 川口病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

川口病院の理念、基本方針

＜当院の理念＞

①生命の尊厳を第一に考え、医療・福祉・保健の分野で最大限の地域貢献を行う、②患者様へ病状の説明を十分に行い、初期医療から回復期までの一貫した医療サービスを提供する、③病状によっては病診・病病連携を図りながら、患者様に最適の医療を提供する。

＜基本方針＞

①地域の方々の期待に応えるための診療体制を構築し、地域で信頼ある病院を目指す。
②菊池地域の救急告示病院として、地域の救急医療に貢献する。

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

川口病院の現状

- ・ **救急医療**

令和4年の当院救急患者3,307人のうち、救急車による救急搬送患者数は362人（菊池市救急告示4病院救急搬送患者880人のうち、当院は全体の41%を対応）。

- ・ **災害医療**

平成12年から災害拠点病院として活動していたが、人員不足や設備の指定要件を満たすことが困難となり、令和5年3月31日付けで指定解除となった。

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

川口病院の現状

- ・ 警察医療・Ai（死亡時画像診断）

令和4年の菊池警察署の検視取扱数70体のうち、当院での検屍は52体（全体の74%）。ほとんどのご遺体にAiを行い、死因を確定させるための最後の医療として取り組んでいる。

- ・ 新興感染症への対応

当院は令和2年10月30日より外来診療・検査医療機関として指定を受け、令和5年1月27日からは新型コロナウイルス感染症入院受け入れ医療機関（重点医療機関、3床）としても指定を受け対応を継続している。

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

川口病院の診療実績（届出入院基本料、平均在院日数等）

- ・職員数
医師：6名（常勤5名：非常勤1名）
看護職員：40名（常勤30名：非常勤10名）
専門職：18名（常勤18名：非常勤0名）
事務職員：7名（常勤6名：非常勤1名）
- ・診療実績
地域一般入院基本料3（令和5年度）
4機能のうち急性期のみ 病床数：60床

	令和2年	令和3年	令和4年
入院患者総数	20,327人	19,348人	18,535人
外来患者総数	42,804人	39,932人	40,132人
新入院患者数	587人	499人	472人
病床稼働率	92.8%	88.3%	84.6%
平均在院日数	34.5日	38.8日	39.3日

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

川口病院の課題

・救急医療の維持・強化

当院は救急告示病院であり、構想区域の救急医療を担う拠点病院の一つであるが、常勤医師、および看護師の退職などにより、年々、救急医療の維持が困難になりつつある。救急医療の維持・強化のための人材確保が課題である。

・病院機能の維持・強化

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入院患者総数、外来患者総数、新入院患者総数が年々減少している。また、入院患者の高齢化の影響もあり、病床稼働率は減少し、平均在院日数は延長している。地域の医療ニーズに応えるため、また、構想区域の病床機能の状況を鑑みて、急性期病床の一部を回復期病床へ転換させることが必要と判断される。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

川口病院が今後担うべき役割

①救急医療

当院は救急告示病院であり、軽症から中等症の救急患者の受け入れを積極的に継続していく。手術などが必要となる患者様に関しては、高次の医療機関へ連携していく。

②地域医療

発熱外来、ワクチン接種、健診業務など、地域医療に必要とされる業務にも注力する。

③リハビリテーション

高次の医療機関での急性期医療を終えた患者様に対しては、住み慣れた地域、お住まいで暮らせる様に、積極的なリハビリテーションを継続していく。

④新型コロナウイルス感染症

重点医療機関として、患者様の受け入れを継続していく。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

平成30年8月の地域医療構想調整会議承認時

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	60	60	60
回復期			
慢性期			
その他			
合計	60	60	60

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

2023年8月1日から急性期病床機能を一部転換

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	60	33	33
回復期		27	27
慢性期			
その他			
合計	60	60	60

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

病床機能転換

2023年8月1日より、急性期60床から急性期33床、回復期27床へ転換。

【転換理由】

- ①人口の少子高齢化に伴い、回復期病床の必要性が増すこと、
- ②菊池構想区域で急性期病床が過剰であり、回復期病床が不足していること、
- ③地域のニーズ（急性期医療を終えた患者様の在宅復帰支援、在宅療養・介護施設で療養している人の急性増悪した場合の対応など）に応え、地域医療に更なる貢献をすること、
- ④当院の現状では、急性期病床の一部は既に回復期病床の様な運用になっていることを考慮し、回復期病床への転換を決定させて頂いた。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年7月時点)	2025年	理由・方策
維持	外科・内科・整形外科・消化器科 循環器科・リハビリテーション科・リウマチ科 放射線科・性病科・肛門科 皮膚科・麻酔科	外科・内科・整形外科・消化器科 循環器科・リハビリテーション科・リウマチ科 放射線科・肛門科 皮膚科・麻酔科	地域のかかりつけ医としての機能を維持する目的（総合診療）で左記の診療科を維持する
新設			
廃止		性病科	ここ数年、性病の患者様の診療を行っていない
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2022年時点)	2025年
①病床稼働率	84.6%	90.0%
②紹介率	—	—
③逆紹介率	—	—

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

①当院は救急告示病院であり、構想区域の救急医療を担う拠点病院の一つである。常勤医師、および看護師の退職などにより、年々、救急医療の維持が困難になりつつあるが、救急医療の維持・強化のため、引き続き人材確保の努力を継続していく。

②2023年7月より社会福祉士を採用し、本格的に地域連携室を稼働させている。7月1日から電子カルテを導入し、診療の効率化を行っている。また、8月1日より、急性期60床から急性期33床、回復期27床へ病床の機能転換を行っている。病診・病病連携を図りながら、患者様に最適の医療を提供し、地域医療に更なる貢献をしていく。